



里山歳時記

少し長めの秋も終えて今は真冬となりついこの間やっと落葉し終わったハクモクレンの枝に鳥の巣が一つ残ってゆらゆら揺れている。入れ替わりにろう梅が今を盛りと咲いている。

この冬もう2, 3回雪が降った。どうも北極の寒気団が妙な発達をしているらしい。松井田町は、群馬でも南部にあるので大雪が降る事はあまり無いのだけれど、森の家辺りも坂道がそこら中であって路面凍結が怖いし雪掻きも大変なことである。何だか今年はカメムシが多いのでこれから雪が何度か降りそうである。覚悟はしているけれど思いやられる。

けれども良く見てみると木々にはすでに新芽がちゃんと用意されていてそれぞれに輝いている。大寒を過ぎてしまえばかえってこういう年の方が春が早いのかもしれない。霜枯れた畑の中をツグミがトトト、トトトと時折吹く寒風にせかされながら歩いている。

石橋 記

花アルバム

春は黄色から



ミモザとラップスイセ



福寿草



菜の花

こんなお客様が いらっしゃいました

年末から新年にかけてのお客様は、延べ7組、44名。

新規は、一組のご家族連れのみ。あとは、ご常連ばかりでした。

もう一組のご家族は、一年ぶり、一人半増えて（お腹にベビィー）、仙台からいらしてくださいました。ご常連は、群馬の入所施設あるいはグループホームから、また、横浜のグループホームから、ご本人たちだけの宿泊です。（このあたりは、森の家の大きな特徴といえるでしょうか。）

年越しだけではなく、ゴールデンウィーク、夏休みも、で、10年程になる方も。

皆さん、田舎の実家に帰ったような気分で、「しばらくでした。」「お元気でしたか？」などの挨拶を交わしながら、勝手知ったるホールで寛ぎます。

31日は、恒例紅白歌合戦を見てから、全員希望で、お隣の古刹雲門寺さんに除夜の鐘を撞きにいきます。お庭に篝火がたかれ、開け放たれた本堂に御参りした後、鐘楼に順番に上がって鐘をつきます。焚き火に当たりながら甘酒をいただき、福袋のお土産までいただきます。地元檀家の方々に混じって新年の挨拶を交わし見上げる空には綺麗な満月。いい年越しでした。

続いて初日の出。3人の希望者は、しっかり身支度をして6時半に玄関集合。車ですぐ近くの高台へ。日の出を待つことほんの数分。見守る内に関東平野の方角に広がる雲が赤く輝き、昇る初日。寒いけれども清々しい気持ちで、いい年でありますようにと祈りました。

少しゆっくりの朝食はお雑煮をいただいて、これも定番、妙義山方面へ。妙義神社御参りはもちろんですが、元旦はもみじの湯・ふるさと美術館が無料なのでしっかり利用。運転ボランティアさんが、同行して下さいます。

2日は、碓氷峠方面、坂本宿の峠の湯でランチバイキングとカラオケ、お土産もしっかり買います。

3日は、着物姿のボランティアさん登場で、お点前をみんなで楽しみました。

ご家族連れは、ソーセージ作り体験をしに「赤城クローネンベルク・ドイツ村」に。

若者グループは、寒さをものともせず、バスで軽井沢アウトレットに。雪景色が良かったそうです。

また、すぐ近くの「ろうばいの郷」のろうばいを楽しみにいった方もいました。

そんなこんなで、あっという間に、それぞれの休暇を終えました。

皆さん、よい1年をお過ごしください。またお会いしましょう。

Mさんからのメール

しょうがつにいろいろなとお世話になりました。とてもよかったです。きたみなさまにいきあえてとてもよかったです。Sさんといっしょにとうげのおんせんにいきからおけをしたりして、とてもよかったです。じんじゃまでいってもらい、じぶんとしてはいちばんよかったとおもいます。たのしいしょうがつができました。また5月にいきます。きいほうどをひいてきちんとできるようにがんばります。まためえるでおくります。

こんなお客様が いらっしゃいました

横浜からのご常連ご家族。（パパ・ママ・1年生男の子・3才女の子）

季節を変えてくるたびに必ずスルコト それは た・き・び

我が家の森の家の楽しみ方をご紹介します。

子どもたちと小さい枝を集めに行きます。ある、ある、すぐ山盛り。

パパ「さあ火をつけるぞ！」火がつくと「パパすごーい！」の声。

「さあ焼くぞー！」たき火の隅に網を置いて、ウインナ・ベーコン・パン・しいたけ・プチトマトなど・・・すぐ焼けて、その場でパクリ。

もうサイコー♪

こどもたちはこのたき火が大好きです。

小さなイベントありました

11月8日

本島阿佐子 / フラ / コンサート in 森の家

気持ちの良い秋の1日、57人の方に来ていただき盛況で、もう、1つのいすも入らないほどぎっしり。

(内、松井田町ふれあい福祉センターに通う車イス3名の方ご招待)

本島さんの歌声はギターの草場学さんとの息もぴったり。楽しいトークと豊富なレパートリーで、素敵なひとときが繰り広げられました。

終了後、お茶とおしゃべりのひとときを持ち、おみやげは里山の幸、柚子&花梨をお持ち帰りいただきました。

当日は、高崎方面の方と、安中・松井田の方が、ほぼ半々でしたが、アンケート結果から、森の家を知らなかったという答えが大多数でした。日頃のPR不足を反省すると同時に、このような催しを通じて知っていただくことができよかったですと思いました。

歌の翼に

アヴェマリア

主よ人の望みの喜びよ

ヴォカリーズ・

五木の子守唄・

浜辺の歌

卒業写真

上を向いて歩こう・

サマータイム・

アメージンググレイス

ギターソロ

ジェット機のサンバ 他

小さなイベントしています

(1/10~2/9 ㊦日・月・火)

信澤淳一 / かわるど in 森の家

& 森の家CAFÉ

信澤さんは、松井田町生まれ、松井田を愛する自由人。

今は、ハガキ絵の制作・指導と、紙芝居がお仕事。 春市では、紙芝居おじさんとして登場。

宿泊の方に、うちわに絵を描く楽しい指導もしていただきました。

今回、ハガキ、羽子板、釜飯のフタ、ダンボール、しゃもじ等に描いた楽しい遊び絵を見にいらしてください。

外は寒いけれど、(期間限定) 森の家CAFÉで、あったまっておしゃべりしてってください。

小さなイベントします

恒例

春市

3月28日(日)

ランチ&カフェ
福祉の仕事場の製品 展示・販売
里山物産 販売
ミニコンサート
ミニバザー

バザー品 お寄せください
取りに伺います
協力スタッフ募集中
一緒に楽しみましょう

下仁田ねぎはいかが！

「下仁田ネギ」は、「殿様ネギ」ともいわれる高級品で、全国区ブランドです。

もちろん群馬県下仁田が有名ですが、昔から松井田でも栽培が盛んで、冬、普通に食べています。昨年、横浜の方のご要望により3度もお送りして大変喜ばれ、風邪を引かなかった、とのことでした。近頃の野菜志向の流れで、鍋物の具材から脱皮、優れた食材として、有名シェフの手により次々とレシピが開発されています。（スープ・マリネ・サラダ・ピザ・グラタン・春巻き等々）

そこで、松井田町発のおすすめ物産として、生産者の顔の見える、安心安全な下仁田ネギを、・の家経由で都会の皆さんにお届けする試みを始めました。

今年は試みに、30人の方にご案内を送付、10人から20箱の申し込みをいただき、12月中に発送し、ご好評をいただきました。

生産者は、・の家の会員でもある、細野地区新井の **石井義通さん**
自家堆肥による完全有機栽培・ほぼ無農薬です。

来年は、もう少し早めに始動して、より多くの方々のご案内したいと思っていますのでどうぞよろしく。

Lサイズ20本程度（4kg入り）1箱1500円（送料別 関東近県750円）

もぎたての

香る柚子湯の

おもてなし



編集後記

1996年3月、「まついだ森の家」オープンのため、横浜から松井田・ここ細野地区に引っ越してきたのは3月も下旬。梅が終わり、桜がまだ・・・の時期。茶色く冬枯れた物寂しい風景が広がっていた。

しかし、それから1ヵ月後、すべてが変わっていた。そこら一面、花々が咲き、緑の草に覆われ、耕された土は黒々と、田んぼの水門が開いて水音は轟々と、空には柔らかな雲、風は心地よく、日ごと長くなる夕暮れの妙義の飽きない眺め・・・これが人間の住むところだ！と思ったことを、今も繰り返し思い起こす。

こんな風に、すべてをひと月で塗り替えるなんて、神様でなければできはしない！！（神様とのお付き合いは無いけど）あれからもう14回目の春を迎える。森の家玄関正面のケヤキは大木になった。

ホトケノザ+オオイヌノフグリ+タンポポのカラフルな絨毯、ある日「山が笑い」、もういいというほど歌ってくれるウグイス、黄金色の田んぼに映える彼岸花、柿のシャンデリア、そしてホンモノの夜空の星のイルミネーション。

3年前にNPOになってからも、「障害のある方々とその支援をしている方々に気兼ねなく泊ってもらえる宿」としての森の家は、少しも変わっていない。でも、さらに私たちの知った里山の良さを伝えていきたい、本当の豊かな暮らしができる場所があることを発信したいと思い、そんな風に、少しずつ、変わって行く森の家です。（黒羽）